



野村 夢永ちゃん

柏ヶ谷、野村勇希・美紀さんの長女=1歳



遠藤 あやちゃん

河原口、遠藤忠悦・陽子さんの長女=1歳



小川 耀太ちゃん

大谷、小川貴司・千昭さんの長男=1歳



吉川 涼ちゃん

さつき町、吉川裕詞・妙子さんの長男=1歳



和田 夏凜ちゃん

上今泉、和田裕二・友紀さんの長女=1歳



本多 司ちゃん

河原口、本多圭一・純子さんの長男=1歳



鹿島 達也ちゃん

国分北、鹿島博文・孝子さんの長男=1歳



森下 夏菜ちゃん

国分北、森下剛・陽子さんの長女=1歳

まんまる赤ちゃん

旬の味覚をもぎとった!

7月上旬に本郷・大谷・杉久保の畑で行われた、青空市出店者会主催のトウモロコシのもぎとり。訪れた親子連れなど約300人が収穫を楽しみました。



コンサート

練習成果お聴きください

高齢者趣味の教室の童謡・ハーモニカ教室が、最終日の7月7日に文化会館でミニコンサートを開催。歌声と音色を披露しました(ハーモニカ教室から)。



みなさんからの作品

海老名の風景⑥



(▷場所 中新田から中央方面 ▷撮影日 6月20日) 大谷在住・佐山友子さん撮影

15の分団が技競う

7月16日、海老名市消防操法大会が市役所西側催事広場で行われ、市内15の各消防分団が参加。第10分団が最優秀賞に輝きました。



今月のプロフィール

人情にふれて走った7日間

東海道五十三次。東京日本橋から京都三条大橋まで、約520キロの距離です。この道のりをわずか7日間で、それもたった一人で走りきり、その間に166首の短歌を詠んだのが国分寺在住の佐々木義昭さん(60歳)。

佐々木さんはランニング歴30年のベテランで、これまでに富士五湖一周マラソンをはじめ、海外のマラソン大会にも出場し、すべて完走した実績を持っています。ジャーニーラン(走り旅)に挑戦するきっかけは、競技とは違った形で自分を見つめる機会を持ちたかったため。実現までの準備は、走行経路・宿泊先・気温・降雨状況などの調査をはじめ、フルマラソンに最適化した身体をジャーニーランに合わせるため、半年間の調整期間を設けました。これには奥さんの理解と協力が不可欠だったといいます。また、走破したという結果もさることながら、特徴的なのはジャーニーランの経過を詠んだ短歌で、走行中にメモを取り、宿泊先でまとめました。

東海道五十三次を一人で走破 旅の思いを三十一文字に込めた

佐々木義昭さん



「三条の橋のたもとのほほ笑み像、弥次さん喜多さん我を迎えし」

「ロンリーラン、山川草木みな伴にして、行きかう道も一期一会」出発前の心境です。これからのジャーニーランに期待が伺えます。

「ウルトラと登山マラソン混ぜたよな、そんな走りの箱根越え」過酷なマラソンを経験してきた佐々木さんにとっても苦しい箱根越えだったとのこと。

「小物入れ、無事にかえってほのぼのと、余す旅路の脚かろやかに」お金などが入った小物入れを置き忘れ、心当たりのお店に連絡をしたところ、見つけて次の宿泊先に送ってくれたそうで、このことは、人情にふれた忘れられない出来事だったといえます。また、初対面のランナーとの併走や、家族連れから「がんばって」と声をかけられたことも、完走への原動力になったそうです。

「完走後、鴨川を見ながらコーヒーを飲んでると、次はどこを走ろうかなと考えてちゃっているんですよ」と笑って話す佐々木さんの少年のような目には、次のジャーニーランで出会う人々が映っているようでした。

「光触媒」の発見は今から25年以上もさかのぼります。当初は光のエネルギーが化石燃料に取って代わるのでは...といわれたそうで

編集後記

すが、エネルギー効率が低く断念。しかし現在も、方向性を変えて、環境にやさしい技術として生き続けているんです。(大)